

2017 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	宮野 勝		
NAME	Miyano Masaru		

1. 研究課題

(和文) 構造方程式モデルによるグループ間比較方法の検討

(英文) On Comparative Methods among groups through Structuring Equation Models

2. 研究期間

1 年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文) グループの間で、あるいは、異なる国・社会・文化の間で、考え方・態度・価値観などは、どのような点で異なっているのか、あるいはどのくらい異なっているのか、などの解明は、グループ間の相互理解を促す上でも重要な問題である。ところが、グループ間の比較研究の方法について、様々な議論が続いており、検討の余地が大きい。

近年の国際比較調査における測定の同等性の研究動向を展望した Davidov et. all 2014 "Measurement Equivalence in Cross-National Research" Annual Review of Sociology Vol.40: 55-75 では、構造方程式モデル (SEM) を用いたグループ間の比較が、最も有望な方法であると提唱している。しかし、例えば Comparative Political Studies July 2016 vol.49-8 では、SEM を用いた異文化グループ間の比較に対する意見は、分かれている。すなわち、SEM モデルを用いて世界価値観調査を批判した Aleman and Woods(1039-1067)に対して、Welzel and Inglehart (pp.1068-1094) は、逆に SEM モデルの利用を批判している。

この例にみられるように、グループ間比較の方法に関して決着がついたとは言い難い。SEM モデルの下でも、複雑で多様なモデルの展開が可能であり、Davidov et. al (2014)が推奨する適用方法が唯一というわけではない。

本研究の目的は、SEM モデルによるグループ間比較の方法を、実際のデータに適用しつつ、批判的に再検討し、明示的にまた暗黙の裡に用いている仮定を吟味して、より適切な SEM の適用方法について模索することにある。

まずは日本内での集団間差異に SEM モデルを適用するために、2018 年 2 月に Web 調査を実施してデータを集めた。現在、データを分析中である。

(英文)

We examine methods of cross-group comparison including cross-cultural one. We focus to investigate a method that uses SEM that has been proposed as the most promising one, which still seems to contain problems. We conducted a Web survey on February 2018 and now we are in the phase of analysis.